

はじめに

2017年度、本学は公益財団法人大学基準協会による7年に一度の認証評価を受審しました。

2016年度に全学を挙げて総点検を行い、その結果を「自己点検・評価報告書：2016年度」としてまとめ、「大学基礎データ」、「根拠資料」とともに、大学基準協会に提出しました。様々な部門・部署の関係者の皆様の多大なるご協力のもと、2017年度に厳正なる審査が行われ、2018年3月14日付で「適合」と認定されました。これは、本学の教育・研究・運営等の場面においてPDCAサイクルが機能し、「大学評価委員会」での内部質保証の充実が図られたことが高く評価されたものであります。

また、2014年度に第Ⅱ期中期目標を策定し、「教育」「研究」「社会貢献」「国際貢献」「管理・支援体制」の5つの柱を重点実施項目として定め、MS（ミッション・シェアリング）シートを用いて、その達成状況について評価する体制を整えたこと。大学全体を運営する組織として「大学運営本部」を設置し、そのもとに「戦略プロジェクト室」「高等教育室」「大学IR室」を配置し、自己点検・評価に対する組織的活動の強化を図るなどの改善・改革に取り組んだことなどが評価されました。総合大学としての教育研究分野の多様性を生かした「キャンパス間留学制度」や、平成25（2013）年度に採択を受けた文部科学省の公募事業である「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」として始まった地域連携・社会貢献活動である「To-Collabo（トコラボ）プログラム」の実施も、優れた取り組み事例であるとして認められました。

しかしながら一部では、学部・研究科における定員管理や、大学院におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの整備と検証体制、研究指導計画の学生への明示等について課題があることが、改善すべき事項として指摘を受けました。これらの指摘事項については真摯に受け止め、2018年度内に速やかに対処されました。

大学基準協会による認証評価の受審期間中に、本学は創立75周年を迎えることができました。学校法人東海大学では建学100周年に向けた学園の総合戦略「学園マスタープラン」が策定されました。これを機に、本学は新たな第Ⅲ期中期目標を策定し、quality of life（QOL）の向上を掲げました。2018年度は、これまでのMSシートを廃止し、新たな中期目標および単年度目標に対応した「事業計画（重点取組項目）」を作成し、実行していただくことになりました。

次回の認証評価は2024年度に受審する予定です。これまでよりもさらに高度な質の保証が求められることとなります。大学改革の流れは留まることなく、むしろ加速しつつあり、様々なご負担をおかけしております。この場をお借りして、関係各位のこれまでのご努力に感謝申し上げますとともに、今後もさらなる質の向上を目指して、各職場における大学改革・教育改革への取り組みを継続していただくことをお願い申し上げます。

関係各位におかれましては、ぜひ本報告書をご覧いただき、教育研究の質向上に向けてご活用いただくとともに、お気づきの点やご提案などがございましたら、お聞かせいただければ幸甚に存じます。

2019年3月

東海大学学長

山田清志